

**注意点1**  **右手**

**16分音符フレーズを3フィンガーで弾く練習法**

ここでは、16分音符を主体にしたフレーズを3フィンガーで弾くためのエクササイズを紹介しよう。1拍が4音になる16分音符フレーズは、3フィンガーでは拍子のアタマの音を弾く指が毎回変わるため、リズムを一定に保つのがなかなか難しい。そこで、すべての音を16分音符で埋めるメイン・フレーズに挑戦する前に、リズムに変化を付けた松竹梅フレーズで練習しよう(図1)。松竹梅フレーズでは、1&3拍目の1音目と2音目を同じ指で弾くため(重複ピッキング)、拍子のアタマの音を鳴らす指を一定にすることができる。リズム・キープを意識しながら、3本の指で均等なピッキングができるように頑張ってくれ!

図1 3フィンガーの基礎トレーニング

・梅フレーズ1小節目

人 人 薬 中 人 薬 中 simile ~

**注意点2**  **右手**

**2ビート・フレーズは3フィンガーで弾くべし!**

スラッシュ・メタルなどで多用される高速2ビート【註】のような速いテンポのフレーズを2フィンガーで刻み続けることは大変だ。2フィンガーだけで弾くと、スピードに追いついていくことに集中するあまり、弾いている間にピッキング力が弱まることもある。したがって筆者は、2ビート・フレーズは3フィンガーで演奏することをオススメしたい。

注意点1でも触れたが、ここでは松竹梅フレーズを使って、2ビートを3フィンガーで弾く基礎練習をしよう。松竹梅フレーズは、2拍で1つのピッキング・パターンになっている、3フィ

ンガーの重複ピッキングを使うことがポイントになる(具体的に右手の指順は、人→人→薬→中→人→薬→中となる)。

松竹梅フレーズで、2ビートを3フィンガーで弾くことに慣れたら、いよいよメイン・フレーズに挑戦してみよう。メイン・フレーズは、重複ピッキングが使えないため、小節のアタマのアクセント音を弾く指が毎回変わってしまう。そのため、こういうフレーズを弾く際には、右手と左手の動きを切り離して考えるとよい。つまり、右手はトレモロ・ピッキングに集中し、逆に左手への意識レベルを高めて、左手の動き

でフレーズの流れを捉えるのだ。人間は、まったく異なる2つの思考を同時に持つことが難しい。例えば、両手にペンを持って、同時に左手で○、右手で△を書くことは大変だ。したがって、左右の手の動きやタイミングが揃わないような複雑なフレーズを弾く際には、まず片方の手の動きに集中するとよいだろう。ちなみに、メイン・フレーズは弦移動を伴うポジションに変えることもできるが、そうすることで右手の動きが増えて、難度も一気に上がるのだ(図2)。3フィンガーは、まず1本弦フレーズで練習を始めるとよいだろう。

図2 2ビートのフィンガリング・パターン

○ 正しいパターン

トレモロ・ピッキングをするため、1本弦フレーズにする。

✕ ダメなパターン

弦移動するので、トレモロ・ピッキングが弾きづらい。

【2ビート】2分音符や2拍子を基調にしたリズムパターン。もともとはジャズのバラードで使われるリズムのことを指していたが、現在では速いテンポとの解釈から、スラッシュ・メタルのビートを指すこともある。